

定住自立圏構想推進シンポジウムin高松～文化芸術の振興による地域力の創造に向けて～の概要

開催日時 : 平成24年1月18日(水)13:30～16:30

開催場所 : 全日空ホテルクレメント高松(香川県高松市浜ノ町1番1号) 参加者数 : 220人

基調講演 : 大阪市立大学創造都市研究科教授 佐々木 雅幸 氏

21世紀は大量生産型の工業経済ではなく、知恵や文化が付加価値を生み出す創造経済の時代であり、創造的なアイデアをもつ人材が集まる創造都市が発展のモデルとなる。定住自立圏構想においても、創造都市をきちんと位置付けるべき。プロデューサーとして芸術家の活動を支える人材を確保し、伝統的街並みの空間などを生かした地域固有の環境を生み出しながら、それらを有機的に組み合わせ、創造性あふれる都市づくりを行ってほしい。



佐々木 雅幸 氏

取組報告 : 高松市長 大西 秀人 氏

瀬戸・高松広域定住自立圏では、創造性豊かな街づくりを目指し、圏域内の子どもたちが直に文化芸術に触れる機会の提供や瀬戸内国際芸術祭関連事業等を実施している。4月からは産業・文化・スポーツなどを担当する「創造都市推進局」を設置し、一体的な事業展開により創造都市としてのブランド力を高めていきたい。



大西 秀人 氏

パネルディスカッション

○ アサヒビール芸術文化財団 事務局長 加藤 種男 氏 (コーディネーター)

重厚長大型の産業による経済発展が困難になりつつある中、文化をはじめとする創造的な産業への投資が非常に重要になっている。ない物ねだりをしたり、今あるものを壊すのではなく、負の遺産も含めて都市にあるものを生かしながら新しいものを生み出していくのが創造都市である。

○ 高松市長 大西 秀人 氏

文化芸術の振興によって、心の豊かさや地域に対する誇りを育みたい。少子高齢化が進む中、コンパクトで美しい街づくりや地域コミュニティの再生を進め、創造的人材が集まるような都市を目指したい。

○ NPO法人アーキペラゴ 理事長 三井 文博 氏

瀬戸内の豊かな自然を広く知ってもらいたいという思いで活動を始めた。瀬戸内国際芸術祭では多くのボランティアが「こえび隊」として活躍し、地域住民も積極的に活動に参加した。今後は人口減少が進む島々で若者が仕事に就き、定住できるような取組を行いたい。

○ 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 芸術・文化政策センター首席研究員/センター長 太下 義之 氏

創造都市の条件は、創造的な空間、創造的なイベント、創造的なクリエイターの育成と産業の振興である。バルセロナでは公共空間に市民に親しまれるアートが存在し、定期的な地域の交流イベントも開催されている。我々日本人には身近であるがゆえに、世界で通用する地域資源の魅力に気づいていないことも多い。例えば食文化も創造都市のカテゴリーの一つであり、食を生かした地域活性化にも着目すべきである。

○ 総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課長 牧 慎太郎

経済のグローバル化や人口減少が進む中にあっても活力ある創造都市を目指すには、何度も訪れたいくなるような魅力ある地域づくりによる交流人口の増加、人々の創造性を高める土壌づくりによる一人ひとりの生み出す知的付加価値の向上、そして何より心の豊かさや未来への希望をもたらす文化芸術の振興が必須である。

